

治験を実施しています



現在、開発中の医薬品の候補（治験薬）を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 肺癌
- 腎細胞癌
- 尿路上皮癌
- 多発性骨髄腫
- 急性骨髄性白血病
- 脳梗塞
- くも膜下出血
- 熱傷
- 大うつ病
- 筋萎縮性側索硬化症
- てんかん（成人）
- 前立腺癌
- 加齢黄斑変性
- 脊髄損傷後疼痛

ご協力をお願いします。

問合せ：———
臨床試験管理センター
tel.088-633-9294

ちけん君は日本医師会治験促進センターのキャラクターです。



病院のお仕事いろいろ



治験は未来への贈り物

臨床試験管理センター
副看護師長・CRC

明石 晃代（あかいし あきよ）

患者さんが治療に使用する薬や医療機器。これらが医療現場で広く使用されるまでには、長い道のりがあります。そのステップの一つが、治験です。治験とは、開発段階の薬などを、患者さんに使っていただき、効果や安全性について調べることで、国からの承認を得るために行うものを指します。本院では多くの治験が行われており、その実施に欠かせない存在が「臨床研究コーディネーター（CRC）」です。

本院のCRCは、主に治験の業務に従事しており、そのまとめ役が明石副看護師長です。「CRCには二つの目線が必要です。一つ目は、治験に参加してくださる患者さんを保護し、権利を守る目線です。患者さんが安心して治験に臨めるよう、1対1でCRCが担当し、不安に思っていることがあれば相談窓口となり、患者さんと医師との橋渡しをします。二つ目は治験協力者としての目線です。法律を守り、治験実施計画書に沿った信頼されるデータが収集できるよう、手順や過程の管理を行います。適正に行われた治験において、従来の薬では快方に向かわなかった患者さんに良い効果が現れたときは、患者さんや医師とともに大きな喜びを感じます。一方で、本来の効果を判断する為に、『プラセボ群』との比較データが必要な治験もあります。プラセボとは、実際の治験薬ではなく、効果が得られないダミーのお薬です。患者さんは治験薬とプラセボ、どちらが当たるか分からない状態で治験に参加されます。患者さんの体調、そして想いを共有し、寄り添えるCRCでありたいと思います。」

本院では治験以外にも、多くの臨床試験が実施されており、診療の場で患者さんへご紹介する機会が多くなっています。治験や臨床試験が正しく認識されるよう、広報することもCRCの役割です。本年度も徳島大学病院フォーラムにて啓発活動を実施いたしますので、お会いできればうれしいです。